

平成 29 年度 第 3 回伊豆市地域公共交通会議 会議録

日 時：平成 30 年 2 月 15 日（木） 14 時 00 分～16 時 00 分

場 所：修善寺総合会館 2 階 大研修室

委 員：19 名

機関・団体・役職名等	氏名	役職
伊豆市長	菊地 豊	会長
総合政策部長	田村 英樹	副会長
国土交通省中部運輸局静岡運輸支局 首席運輸企画専門官	藪田 丈夫	委員
静岡県交通基盤部都市局 地域交通課長	(代)山崎 友寛	委員
一般社団法人静岡県バス協会 専務理事	平野 洋一	委員
静岡県タクシー協会 賀茂・修善寺副支部長	寺山 冗二	委員
伊豆箱根バス株式会社 常務取締役 管理部長	岩田 晃	委員
株式会社新東海バス 代表取締役	土屋 成人	委員
伊豆箱根鉄道労働組合 書記長	西尾 清明	委員
静岡県沼津土木事務所 技監兼修善寺支所長	海野 雅之	委員
大仁警察署 交通課長	渡邊 友将	委員
伊豆箱根鉄道株式会社 執行役員 鉄道部長	井村 眞一	委員
株式会社伊豆中央自動車 代表取締役	佐藤 諭	委員
伊豆市区長会長	勝呂 義衛	委員
伊豆市老人クラブ連合会長	鈴木 實	委員
建設部長	山田 博治	委員
健康福祉部長	村井 克代	委員
産業部長	(代)塩谷 為善	委員
教育部長	(代)城所 章正	委員
伊豆市副市長	本多 伸治	
建設部都市計画課長	(代)土屋 直也	
東海自動車株式会社 バス営業部 部付課長	和泉澤 貴治	
伊豆箱根バス株式会社 営業部乗合課 係長	岩崎 勝一	
東洋大学 国際学部 国際地域学科 教授	岡村 敏之	アドバイザー
総合戦略課長	佐藤 達義	事務局
総合戦略課 主査	飯田 克彦	事務局
総合戦略課 主任	室住 実希	事務局

資料：①次第 ②席次表 ③委員名簿 ④資料 1：伊豆地域公共交通活性化協議会 ⑤資料 2：順天堂大学付属静岡病院への利便性向上事業について（情報提供） ⑥資料 3：2018.3.17 駿豆線ダイヤ改正にむけて ⑦資料 4：平成 29 年度伊豆市生活交通ネットワーク形成計画 推進状況について ⑧資料 5：天城湯ヶ島地区における予約型乗合タクシー実証運行 実施状況報告 ⑨資料 6：中伊豆地区における地域公共交通の見直し 検討状況報告 ⑩資料 7：伊豆市公共交通総合時刻表作成事業 実施状況報告 ⑪参考資料 1：平成 29 年度地域間幹線系統の事業評価結果 ⑫参考資料 2：地域公共交通確保維持改善事業・事業評価

1. 開 会

2. 挨拶（市長）

皆さんこんにちは。大変ご多忙の折にご参集賜りまして誠にありがとうございます。

幾度も申し上げますが結構、私は意図的にバスに乗るので、朝のバスの乗り方を見てみると色々気付くことがある。朝7時すぎに小学生の通学、次に高校生ぐらいになり、その後、少し減り、今度は年配の方が乗られる。そうすると、バス会社も大変だと思うが、どうしても年配の方々の乗降に少し時間がかかる。その時ふと気付いたのが、出口バス停でいつも同じ障害をお持ちの方が乗られるが、ずっと乗れないでいた。いつものバスより少しステップが高かった。初めて、このような方には数センチのステップが障害になるのだとつくづく感じた。我々はまだオリンピックを目指してユニバーサルデザイン化があまり大胆に着手できていない。時間はかかるが、道路整備だけでなく、色々な場面で少しずつの配慮を、時間をかけてでも実現して行くべきなのだろうと感じた。

1月の下旬に南伊豆町に行った。わさびの世界遺産の件だったか昭和の森に居たので、そこからバスに乗った。河津までこんなに早く着くのかと本当に驚いた。しかも運賃は千円程度。そこから電車に乗り換えた。問題は、このちょっとした手間とバス代を払うか払わないかである。当然、天城峠を自分で運転せずにバスに乗るわけなのでストレスはものすごく軽い。二日酔いでも乗れる。時刻表をちょっと調べ、自分がバスに合せるという手間を受け入れるのかどうなのか、河津から修善寺駅まで1,700円をちゃんと払っていただけるのか、そういった気持ちによってバスや電車を守れるかどうかという事だと思う。これは、行政が頑張れば守れるという問題ではないので、やはり電車、バス、タクシーを、自分たちが使うか使わないか、ちゃんとお支払いをするかしないか、時間を合せる手間を受け入れるか受け入れないか、我々市民の側にかかっている。今日は専門家の方々のご意見を承った後、一定の方向がでたら、しっかり市民の皆さんに働きかけ、市民の皆さんの合意形成とともに進めさせていただければと思っている。

本日も最後までよろしく申し上げます。

<会議の成立報告・議事録の公開>

3. 議事

議事内容

(1) 南伊豆西伊豆地域公共交通活性化協議会事業について

資料1・資料2について静岡県、事務局より説明。

【質疑応答】なし

(2) 伊豆箱根鉄道駿豆線ダイヤ改正について

資料3について伊豆箱根鉄道より説明。

【質疑応答】なし

(3) 伊豆市生活交通ネットワーク形成計画の推進状況について

資料4（伊豆市生活交通ネットワーク形成計画の推進状況）について事務局より説明。

【質疑応答】なし

資料5（①天城湯ヶ島地区地域内交通実証運行）について事務局より説明。

【質疑応答】

アドバイザー：事務局より、運行を継続したいという提案事項、そして目標値を設定するということが協議事項かと思います。率直なご発言をお願いします。

委員：今回の実証実験ですが、再確認として目的を教えてください。

事務局：前々回の交通会議でも説明させて頂いたところであり、網形成計画にも示しているが、枝線の運行のところ（自主運行も含む）を別の枠組みで見直しが出来ないかというところで検討している。アンケート調査でも、将来の不安として高齢者の通院、買い物の外出への不安が高かったが、通院は病院側の送迎があるところで、買い物の将来への不安をどのように対応するかというところに対しての検討が目的の一つともなっている。

委員：自主運行バスを廃止するために実証実験の結果を活用するという事ではないという見解でよいか。

事務局：湯ヶ島エリアで国道136号から中のエリアを運行している路線があり、見直し出来るか今回の実験を踏まえて検討をしているところである。

委員：乗車率のアップについては、既存バス路線がある中でのデマンド運行であるため、数字をあげるということは難しいのではないかと。既存路線が無い地域での実証実験の方が良いと思う。

事務局：ごもっとも意見であるが、湯ヶ島から奥に入ったエリアの自主運行バス路線については、朝と夕しか運行しておらず、昼の買い物の時間帯の運行が無い。そのような時間帯においての実証実験である。国道136号まで出ればバス路線はあるものの、そういう空白の時間帯で実験を行っている。

委員：平成30年度で冷川地区でも実証実験の予定があるが、同様の考え方の取り組みであるのか。

事務局：自主運行の路線があり、そこから枝線に分かれているところがある。同様に新しい枠組みの可能性を検討していくところである。次の中伊豆地区の取組みの中で説明をさせて頂く。

委員：静岡地区でバスが廃止になったため、地域住民が自分たちでバスを運行するということが記事にのっていた。裾野・御殿場地区において、現在の路線バスを廃止するという話も出ている。地域で、自主的に路線を運行するという取組みも始まっているようであるが、そのあたりの考えはどうか。

事務局：今後の可能性として、地域で独自に目標を設定して取り組むことを支援していくことも考えられる。お出かけの支援という考え方も、計画の中で検討していく項目となり得る。

会長：ご意見については本当に悩ましいところである。東京ラスクと同居してい

る湯ヶ島支所を 1 km位先に移転するという事について、何故バス路線から遠くの位置にするのかという地域からの指摘があった。しかし、そもそもバス路線が無い地区もある状況での取組みでもある。天城湯ヶ島地区には拠点が無く、病院などは月ヶ瀬、更に行くとなるとマックスバリュや中島病院という形であり、拠点形成が難しい。中伊豆の八幡の場合は、カドイケに行くと郵便局、支所が近くにあるが、歩いて行けるのかというところもある。委員のご指摘を 10 年、20 年かけて本腰あげようとする、土地利用なども考えないとそこまで行かない。交通は交通、拠点は拠点づくりという取組みとなっているが、少しずつ進めないといけないのかなと考えているところである。

ががが：目標の稼働率、乗合率については難しくないような数字に見えるが、実際は難しいところである。乗合率が高く無ければ普通のタクシーを利用すると変わらないため、乗合率を達成することで運行を継続したいというところである。現在利用が少ない状況であるが、地域の方に使っていただき慣れていただかないとまだ検証も出来ないというところである。

会 長：乗合率が達成できないと、県の補助金がもらえないということか。

事務局：県の補助金の条件は 1.1 以上であるが、この条件で全て補助金がもらえるということではない。

委 員：この地域では、朝晩は自主運行バスが運行しているということであるが、朝晩は通学や通勤の需要への対応だと思う。日中の便が無いので今回の実証運行というところであるが、登録が 71 人では少ないと思う。地域の方が日中の足として意識を持っていただくことが必要である。自家用車を利用する方もたまには利用してもらわないと実現しない。乗合率を上げるというのは、その地域が積極的にその交通機関を利用しないといけないという考えを持っていただかないと難しい。生活スタイルを変えて利用いただくというところ。乗合については、乗合の際のインセンティブ（運賃のメリット等）を与える等が必要であると思う。その地域の人たちがこの交通手段を選び、継続させるという意識づけが必要かと思う。

事務局：地域の区長様、民生委員、包括センターなどに入っていただき、議論しているが、インセンティブや無料の体験乗車実施などの指摘ももらっているので、取り組んでいきたい。

委 員：民生委員が移動に困っている方を訪問する際に、このような交通があるということの説明して利用促進につなげてもらえればありがたい。

委 員：私が住んでいるところは田沢であり、路線バスは通っていない。矢熊も通っていない。今回の取組みは非常に良いことだと思い登録した。実際には田沢で 2 名しか利用が無いが、地域からの意見としては、朝の便で出口に行って買い物をしても 1 時間もかからないため、帰りの便が困るということである。また、農協までの運行範囲とはならないだろうか。もう少し足を延ばして修善寺周辺のショッピングセンターに行けないかとも思う。た

だ、田沢としてはまだ周知が十分できていない。年寄りが多いので理解できていない状況もある。非常に良い取り組みであり、続けて欲しいという考えがある一方、利用しないというのは周知できていないということである。老人会は市山と田沢にはあるが長野、矢熊には無いため周知が十分でない。現時点では、田沢、矢熊の方が出口で降ろされて、帰りまで待ちきれないというところがあり、この点など色々考えられると思う。老人の立場としてはこの制度は良いと思っている点は承知頂きたいと思う。

委員：民生委員という話も頂きありがとうございます。6か月延長するというところで、今ちょうど、福祉タクシー・バス利用券について3月末に手紙にて周知するところであり、4月からの12,000円分の利用券を出すことになるが、この利用券は今回の実証運行に使えるのかという点を確認したい。利用できるということであれば、利用券を配布する際にチラシを入れて周知すると良いと思う。私の母もバスを利用してセイジョーまで行くという話も聞いているが、運行区間というところも検討しても良いのかと思う。

事務局：今回アンケートでも回答を頂いているが、買い物関係についての目的地の工夫も必要かと思う。マックスバリュも買ったものを座って食べられる場所があるが、そういう待つ方が集える場所、公民館を利用するなども含め、事業者さんと考えていきたい。なお、修善寺方面は既存バス路線と重複してしまうため、公共交通全体として棲み分けを考えていきたいと思う。

委員：今回のアンケートを踏まえるとデマンド運行は難しいのだと思う。今の運行であれば往路・復路の時間が決まっている運行にある。実際にお客さんがいなければ走らない、いけば走るということかと思うが、例えばデマンドは30分や1時間前に連絡して利用するという方法もある。今回のアンケートにおいては、運行方法自体は変えないという前提で行っているが、あくまで同じやり方でやっていくということか確認したい。静岡市内では、地域自らの自家用有償により取り組んでいる事例がある。そういう方法は増えていく可能性があるが、伊豆市としてはこのような可能性もあるか確認したい。

事務局：根柢として方法の変更はしない前提である。休日運行という意見もあったが、まずは今のベースで変えられるものを切り口としている。事前の予約も、タクシー運転手さんの管理もあるので、前日というところとしていきたい。なお、市街地などで行う場合や運行距離も短い場合などでは別の方法もあると思うが、今回の地域は運行が長距離であり、利用できる車両も少ない中で検討し実施している。

アドバイザー：使い勝手を良くする、上手に乗り合う、生活スタイルをこの時刻にあわせてもらうなど、地域へ説明しながら取り組んでいくことが必要なと感じます。他に意見はありますか。そうしますと、次は4月以降の半年継続について、本会議で了承得られれば行うということになりますが、継続の可否についてご意見ありますでしょうか。事務局案としては10月までは、若干変えると

ころはあるが大枠は変えずに運行継続をするということである。

委員：1点あります。既存路線というところで、要望ということでお願いしたいが、既存路線の棲み分けは考慮頂きたい。そこだけお願いしたい。時間帯の空白について異議はないが、幹線の部分をお願いします。

アドバイザー：これについて議決をさせて頂ければと思います。4月から10月までの継続について了承いただけますか。ご異議ないようですので、継続が承認されました。続いて中伊豆の状況報告をお願いします。

【採 決】 原案のとおり承認。

資料6（②中伊豆地区地域内交通実証運行）について事務局より説明。

【質疑応答】

アドバイザー：次回の会議でまとめていく計画についてであるが、いかがか。

委員：修善寺 - 伊東間の路線は幹線となっており、筏場線を中心に支線の対応をしていくという計画であったと思うが、筏場方面が幹線としてのバスの運行エリアとして、伊東方面の路線は市で運行している路線であり見直すということなのか。

事務局：網形成計画の中で、湯ヶ島と同様に中伊豆地区は幹線と枝線で検討していくことを位置づけている。今回、中伊豆地区では2段階で考えていくこととし、枝線として対応していくという考えが示した計画である。一方、筏場方面は伊豆箱根バス路線として一定の本数を運行して頂いている。このため、修善寺から八幡、筏場の分岐点の運行はもう少し調べる必要があるとの認識に立ち、今回示した東側のエリアでの枝線としての検討を進めている。

委員：伊豆市が運行している自主運行は残すということ、そして周辺をその幹線につないでいくということによろしいか。

事務局：その通りである。

委員：自主運行は伊豆市の収入に関わると思う。冷川峠線、沢口線のダイヤは変えないと認識しているので、既存の自主運行バスの利用動向は確認して頂いていただきたいと思う。

アドバイザー：既存バスとの調整は行うということである。基本枠組みは湯ヶ島と変わらないため、その際の課題対応も含めて詳細の詰めをして頂きたい。

委員：計画のルートは、現在バスが運行するルートを通るのか。

事務局：一部通ることになるが、時間帯は調整する。

委員：中伊豆地区では旧道沿いの居住が多い。せつかく新しいシステム導入するのであれば、既存バス路線に行くのが大変な方のために旧道の運行を考える必要があると思う。

事務局：パールタウンから農道を通っていくところに住宅があるなどの状況があるが、目的地をカドイケ、中伊豆支所とした場合の運行として、現時点では設定しているところである。

アドバイザー：路線と言いつながら点（乗降箇所）であり、当然、地域の方のニーズで設定していくということかと思う。結果的に委員のおっしゃられるようになるのかと思う。

委員：湯ヶ島については運行継続ということでありありがとうございました。中伊豆も10月から始まるかもしれないというところであるが、パールタウンは事前に要望があったと聞いているため期待している。総合戦略課の方と協力してやっていきたいと思しますのでよろしくお願ひしたい。

委員：中伊豆については自主運行路線ということではなく、国、県から補助を受け運行している。しかし、一定のレベルまでしかいっておらず、欠損金のすべてを補てんしてもらっている訳ではない。会社としては、補助金もらっても補てんが出来ていないこの路線をどうするかという議論になっている。かなりの赤字で運行しているということは理解いただきたい。デマンドということによって、幹線の活性化になるように協力をしていければと思うが、既存の補助路線もかなり苦戦しているというところはご理解いただきたい。

アドバイザー：この件については次回、案が出てくるということでお願ひしたい。

資料7（③伊豆市公共交通総合時刻表作成事業）について事務局より説明。

【質疑応答】

アドバイザー：第二稿に向けてお気づきの点あればお願ひします。

委員：せっかく良いものを作っているため、伊豆市のホームページにバナー等分かるようにして掲示してもらいたいと思う。

アドバイザー：そのようにして頂ければと思う。

4. その他

○その他

参考資料1、2について事務局より説明。

○次回会議の案内

事務局：本日の議題、その他事項、以上をもちまして、第3回会議を終了いたします。

次回は来年度6月末から7月頃を予定しています。よろしくお願ひします。

5. 閉会（16時00分）